

東通原発地点海域温排水等影響調査

小倉大二郎・奈良 賢静・池内 仁・小田切譲二

発 表 誌 名

昭和59年度東通原発地点海域温排水等影響調査報告書

抄 録

1. イカナゴ稚仔分布調査

東通村白糠～小田野沢沖の海域において5月～6月にかけて延5回（計68点）、光力利用敷網によりイカナゴ稚仔の採集を行った。

イカナゴ稚仔は小老部川～小田野沢沖にかけて分布量が多く、これまでの調査と同様の分布傾向にあった。なお本年はイカナゴ漁の初漁日が遅れ、5月上旬の尾叉長モードが昨年度と比較して約10mm小さいなど魚体も小型であり、本年2月～6月にかけて発生した異常低水温現象との関連性がうかがわれた。

このほか、昨年度採集分をも含め本海域で採集したイカナゴ稚仔標本の脊椎骨数を計測した結果、モードは65（urostyleを含む。）で、宮城県北部～岩手県に分布するものと同数であることが明らかとなった。

2. サケ稚魚分布調査

イカナゴ稚仔分布調査と同時期、同地点で採集を行ったほか、併せて白糠、小田野沢漁港内において投網採集も行った。

サケ稚魚は水深10m以深に多く分布し、特に小老部川沖以南、小田野沢沖周辺に分布量が多かった。また沖合ほど平均尾叉長が大きくなる傾向が認められた。

老部川産のサケ稚魚は調査海域周辺で期間を通じて尾叉長モード3～4cm台で出現したが、泊以南の海域では分布が認められず、北上の傾向を示していた。

なお、白糠、小田野沢両漁港内では老部川産の稚魚を含む大量のサケ稚魚の分布が観察されたが、開放型海域である同地区では静穏な環境下にある港湾施設が稚魚生育上重要な場となっているものと考えられる。

このほか胃内容物調査の結果、本海域におけるサケ稚魚の主要餌料は昆虫類（尾叉長3cm台）、橈脚類（同4～5cm台）、魚類稚仔（同6cm台以上）、端脚類（サイズの大小に関係なし）等であることが明らかとなった。